

物を大切に

今、年齢五十歳以上の人は、子どもの頃の「物」についての次のような体験をお持ちのことと思います。一年生の時には、消しては書くことの出来る石盤いしばんを使い、鉛筆はサックをして短くなるまで使う。服は兄妹のお古を順に着せられ、また中学生になると、参考書や英語の辞書をやっ

と一冊だけ手に入れ、それを手垢が付くまで使う、等々。
それに比べて、今の子ども達はどうかでしょう。欲しい物が何でも手に入るせい、物を大事に使うということが出来ません。学校では学期に二回ぐらゐ落とし物の箱が鉛筆や消しゴムで一杯になりますし、真新しい上履や体育着の落とし物が後を絶ちません。そして、学期が終わりに近づきますと、持ち主のない傘が束ねる程出てきます。また、食べ物は何でも食べられるのに、偏食のためか栄養が片寄り、子どもの成人病がふえているそうです。

どうしてこのように物を粗末にする習慣が身に付いたのか、その背景を考えてみましょう。子ども達が欲しがるとおもちゃ類、学用品、食べ物、衣類は店頭にあふれ、マスコミはこれらの商品を盛んに宣伝します。そして親達は、比較的容易に子どもの欲しい物を買ってやります。この

ように物質的に豊かな社会の中で育った子ども達が、物に愛着が薄く、物を粗末にする習性が育ったとしても、むしろ当然なことといわなければなりません。かといって、今さら昔のような耐乏生活に逆もどりすることは不可能です。
それでは、現状をそのままにして置いてよいのでしょうか。私達は戦後の貧しさから抜け出すために、経済を優先させて一心不乱に働き、現在の豊かさや繁栄を築き上げました。



しかし、その代償としてゴミ問題や大気汚染等地球規模の環境汚染をかかえることになりました。また急速な大量消費によって、石油や木材等の地球の資源が乏しくなり、私達は将来に不安をかかえる結果となったのです。

では、家庭で具体的にどんなことに心懸けたらよいでしょう。必要と思われる事柄を四点ばかり挙げてみます。

- 一、必要以上に物を与えない。
「欲しい時、欲しいだけ」与えるのではなく、「必要な時、必要なだけ」与えるようにしましょう。そうすれば、耐える力も養われます。
- 二、適切な小遣いの与え方と管理
低学年はその都度、高学年は月極めで与えるのが一般的でしょう。小遣いの額や与え方を工夫し、上手に遣わせることにより子ども達の金銭感覚が育ちます。(一月号本欄「お年玉」参照)
- 三、持ち物には名前を付け、大事に使う。
- 四、自分の物、他人の物のけじめをつけさせる。

物の貸し借りはなるべくしない。借りた物は必ず返す。図書館の本等の公共物は、返却期限厳守。
以上は子どもに教えないければならない事柄ですが、この教育を効果あらしめるためには、大人(親)自身が必要にして物を大切にすることを模範にしなければなりません。衝動買いは慎む。無駄なドライブは控える。ゴミ処理の工夫等々。
要は、大人も子どもも少々の不便を覚悟がまんし、物を大切にすることが肝要であると思います。

ふるさと講演会

産業の振興をめざしたふるさとづくりについて、今日の社会環境の変化に対応して、どのようにデザインしたらよいのでしょうか……

日時 3月22日(日)午後2時
会場 富士女性センター
3階大研修室
演題 「ふるさとづくり」に寄せて
一商工業の現状と展望について」
講師 坂本 宏氏(山梨県商工労働部長)都留市出身
後援 都留市
連絡先 SANTIキャンパスタウン
都留を創造する市民の会
奥 隆行 ☎(43) 3 1 3 2

南都留地区子ども綱引大会で優勝

一月十二日(日)に富士吉田市鐘山体育館で、南都留地区の各育成会からチビッ子が集まり、「子ども綱引大会」が開催されました。都留市からも上天神町育成会、境育成会の子ども達が参加しました。出場全二十九チームによる総当り戦が実施され、小学校三・四年の部、同五・六年の部で境育成会のチビッ子チームがそれぞれ優勝し、上天神町チームも善戦しました。
育成会における綱引大会は来年も開催される予定です。綱

